

今年度は、新型コロナウイルス感染症にかかるその後の状況及び学校教育への影響等を考慮し、全国学力・学習状況調査、および県学力・学習状況調査を実施しないことになりました。津幡町としては、第5学年の「国語科・算数科」の学力調査を実施し、笠野小学校としては、本校児童の弱みが克服されているかを検証する「検証問題」を実施いたしました。

1 町学力調査の結果について

国 語 科		算 数 科	
総合 町平均比較 ◎ 全国平均比較 ◎		総合 町平均比較 ◎ 全国平均比較 ◎	
基礎・基本	活用	基礎・基本	活用
町平均比較 ○ 全国平均比較 ◎	町平均比較 △ 全国平均比較 ー	町平均比較 ◎ 全国平均比較 ◎	町平均比較 ◎ 全国平均比較 ◎

◎5%以上上回る ○1~5%上回る ー平均と同程度 △1~5%下回る ▲5%以上下回る

国語科、算数科ともに総合点は町平均、全国平均を大きく上回る結果となりました。しかし、基礎・基本の力と活用力に分けて分析すると、国語科活用力に課題が見つかりました。具体的には、説明文に書かれている筆者の解釈と事実を判断するといった、活用的な思考・判断力を高める必要が見受けられます。算数科活用力は全国平均と比較すると14.7%上回る結果となりました。

調査により測定できるのは学力の一部ですが、調査の意義を踏まえ、笠野小学校の児童の学力向上に向けた改善に役立てていくよう努力していきます。

2 本校の強みと弱み および今後の取組について

今年度1学期末に、弱みが解消されているか否かを把握するため、検証問題や単元テストに取り組みました。その取組から見えてきた本校の強み○と弱み△を克服するための取組★についてご報告します。

(1)国語科

- 段落構成、文字制限の条件に沿って書くことができる。【3~6年】
- 声が小さい児童も見受けられるが、考えを進んで話し、友達の考えを理解しながら聞くことができる。
- 初見の文章でも、ある程度の速さで正確に読むことができる児童が多い。
- △伝える目的に沿って書くことが苦手である。(例：手紙の形式で感謝の気持ちを書く、引用をふまえて考えを書く等)
- △目的に沿った文を書くことが苦手な児童の中には、情報の取り出しは概ねできているものの、情報の整理・分析に課題があるため、条件を満たした文章になっていない。
- △表記に課題がある。(各種符号を正しく使う、話し言葉を用いない、文末表現を統一する)
- ★書こうとする題材に必要な事柄を集めて、文章を書く。【低学年】
- ★収集した資料から情報を取り出し、情報を整理し、自分の考えを伝える文章を書く。【中・高学年】
- ★伝える目的を理解し、目的に沿った文章を書く。【中・高学年】
- ★原稿用紙の使い方を理解し、適切な表記で書く。

(2)算数科

- 基本的な知識・技能は、概ね身につけている。
- 最後まで粘り強く取り組み、無回答が少ない。
- 問題文を読み、求めるものを正しく把握している。【3~5年】

△図形の合成や分解など図形の構成について様々な見方をすることが苦手である。

△図形の性質や構成要素に着目して考察し、図形の性質を基に説明する文章を書くことに課題がある。

(言葉が足りない、条件が不十分)

△グラフ等の資料から、特徴や傾向を読み取ることが苦手である。

△グラフ等の資料から読み取ったことを、目的に合わせて適切に使い、説明する文章を書くことが苦手である。

★具体的な操作を通して、図形の構成について考える。方向や位置についての言葉を用いて、ものの位置を表す。【1年】

★図形の性質や構成要素に着目して、図形を観察・構成する。【2～4年】

★形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察する。図形の性質を見だし、その性質について筋道を立てて考え説明する文章を書く。【5年】

★棒グラフ等の資料から特徴や傾向を読み取る。【3～6年】

★読み取ったことを関連付けて判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述する。【5. 6年】

(3)社会科

○地図帳を使って、調べることができる。

○一つの資料から、情報を適切に得ることができる。

△課題解決へ見通しをもって、得た情報を多面的・多角的に考察することが苦手である。

△考察したことを、文章で説明することが苦手である。

△社会科用語と意味の理解が不十分のため、社会科用語を用いて、説明することができない。

★複数資料(2つ程度)を与え、資料から分かること、違い、疑問を導く授業を行う。資料はノートに貼り付けて、その資料に書き込みをさせることで、資料活用の力を伸ばす。

★社会的事象(表やグラフ、写真、地図などの資料)から、疑問や気づきを引き出し、課題設定に結び付けるようにする。資料から読みとったことを基に、考え、理由、根拠を書く活動を位置づける。

★社会科用語の意味理解を図る。(家庭学習で取り組む)

(4)理科

○実験結果の予想や仮説を、自分なりに立てることができる。

○少人数のため、実験、観察、器具に実際に触れる機会に恵まれており、経験を積んでいる。

△条件制御の目的がつかみ切れていない。

△観察、実験の結果を分析して、科学的事象として解釈することが苦手である。

△科学的な概念を使用して考えたり説明したりすることが苦手である。特に説明の文を書くことが苦手である。

△理科用語が身につけておらず、使いこなせない。

★実験結果と関連づけながら、科学的事象を説明する「考察」の時間を設定する。(ノートに記述させる)

★得られた結果を基に自分の考えをもち、対話によって自分の考えをより妥当なものにする言語活動を取り入れる。さらに、対話で得られた考えをノートに記述する時間を設定する。

★グラフ等の資料から情報を適切に取り出す活動を重視する。

本校では、昨年度行われた各種学力調査の結果から弱みを把握し、その弱みを授業の中で効果的に克服するための「弱点克服単元」を設定しています。そして、「弱点克服単元」で、特に力を入れる活動を明確にし、指導を確実にを行うために、カリキュラムマネジメントを行っています。

また、本や資料から、素早く的確に情報を取り出す力の育成を目指し、読書の取組にも力を入れていきます。毎週火曜日を「よむよむデー」と設定して学校全体で読書に取り組み、「週末読書」「親子読書」の宿題を出すことで家庭とも連携しながら読書活動に力を入れてきました。その成果として、1週間に3日以上読書に取り組んだという児童の人数は年々増えてきました。

笠野小学校では、上記の結果を踏まえ職員一丸となって努力していきます。学校と家庭が連携して、今後とも笠野っ子の成長のために頑張っていければと願っています。今後とも、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。